

# 東葛支部会報

第2号

千葉工業同窓会東葛支部

2000年6月10日



▲ 中山法華経寺五重塔 (市川市)

## 同窓会本部主催行事参加報告

### 1 第1回 親睦チャリティゴルフ大会

期日：平成11年10月6日(水)

場所：房総C.C. 大上コース

当支部出場選手：

立崎 作次 (支部長)

宇賀野政次 (会計監査)

木間 英一 (常任幹事)

吉田 勝彦 (経理部長)

東葛支部設立以来、初の本部主催行事に参加ということで、選手4名緊張して会場へ到着。

幸いにも天候に恵まれ、総勢70名の各支部代

表の皆様と楽しくプレーすることが出来、終了後の表彰式兼親睦会を含め、大変有意義な1日となりました。

また、当日のチャリティは、母校のある千葉市社会福祉協議会に「社会福祉に役立ててほしい」と現金7万1千円を寄付したとの報告もありました(平成11年10月9日の千葉日報に掲載されました)。

【成績結果】 団体優勝：外房支部

準優勝：北総支部

当支部は参加9チーム中7位でした。

今後も毎年開催する予定とのこと。会員の皆様、次回は是非参加してみたいかがですか。

連絡先：ゴルフ担当 吉田勝彦

Tel. 0471-91-0232



◀  
第1回 チャリティゴルフ大会参加選手  
左から  
吉田、立崎、木間、宇賀野



▶  
第4回 麻雀大会参加選手  
左から  
田口、木間、高橋、吉田

## 2 第4回 麻雀大会

期日：平成11年10月30日(土)

場所：千葉市中央区「王様」

参加人員：

団体戦 本部および各支部 4名×7チーム

個人戦 12名

当支部参加者：

田口 昭(常任幹事) 吉田勝彦(経理部長)

木間英一(常任幹事) 高橋健一(副支部長)

### 【成績結果】

当支部は団体戦で堂々3位入賞。個人戦でも2名がベスト7に入る健闘を見せました。

なお、ゴルフ大会同様毎年開催される予定です。

支部によっては、予選を行って代表選手を決めたところもあったとのこと。会員の皆様で我と思わん方、是非次回の参加をお願いします。

連絡先：麻雀担当 高橋健一

Tel. 0471-59-9367

## 支部主催清澄山ハイキング

副支部長 住田 敏 和

去る11月3日(祝)、当支部主催のハイキングを開催しました。

残念ながら参加者はあまり多くありませんでしたが、雨にも振られず、楽しい一日を過ごしました。

千葉から外房線のドン行へ乗車、車内はがらがらで、即、ビール、酒で宴会となりました。

色々と話が弾み、あっという間に安房天津駅へ到着、町営のバスで清澄山へ向かいました。

清澄寺の手前から左へ入ると「あじさい」で有名な天拝園へのハイキングコースがありますが、今回は季節外れのためパスし、まずは清澄寺へ参拝、そばにいた方にカメラのシャッターを押してもらったのですが、何故か写っていませんでした…○×◇?

清澄寺は、771年に天台宗の寺として創建された修行の霊場でしたが、小湊に生まれた日蓮が12歳の時、この寺に入って道善法師に師事しました。その後、比叡山での修行を終えて1253年に帰山、旭ヶ森から太平洋に昇る朝日を見て、日蓮宗開宗の第一声をあげたといわれています。しかし、周囲の無理解により一人山を去って長い伝道の旅に出ることになります……。

以後、この寺は真言宗に変わりましたが、日蓮聖

人を慕う人が絶え間無く参詣するようになり、戦後の1949年、ついに日蓮宗へ帰属して今日に至っています。

歴史はさておき、山をひとまわりしたので腹がへり、寺からほど近い茶店で昼飯となりました。おでんを肴に先ずは一杯、女主人をからかいながら、そばを食べて元気になったので出発……。

平らな道ばかりではつまらないので、途中から左の谷の方へ降りてみました。降りる途中、めじろの囃子??をしている人が居て、突然現れた我々に驚いている様子でした。

沢はほとんど枯れていて水はありませんでしたが、倒木が多く、歩くのが大変な上に、帰り道の方向から外れて左へそれて行く様子なので、途中からまた元の道へ戻ろうと急斜面を登りましたが、丁度酔いが回ってきた頃なので、息は切れるし、汗は出るし、へとへとなり、やっと元の道までたどり着きました。

酒を飲んで山へ登ってはイケマセン……。

途中、新しく道を造っている場所があり、近道らしいのでそちらを行くと、山の斜面に野生の子連れ猿軍団が現れて、一同大歓迎を受けました。

安房天津駅からまたドン行に乗り、宴会をしながら千葉へ戻りました。

おつかれさま……。



▲ 清澄寺



▲ 日蓮聖人像

## 千葉工業の偉大な伝統を満喫

支部長 立崎作次



平成11年12月中に、予期せぬ慶事が二件あり、東葛支部役員として、それらの祝賀会へ出席する機会に恵まれました。

第一件目は、母校の永峯現校長の千葉教育功労賞受賞祝賀会が、12月4日(土)ホテル・サンガーデン千葉に於いて開催されました。

県教育委員会からの功労賞は、通常、退職時に表彰されているようですが、先生は、見事に現役中の受賞となりました。先生の卓越した指導力が高く評価されたものと確信します。

何故なら、教頭先生のお祝いの挨拶の中から、校長先生の最高管理者としての教育への意欲と人間関係への気配り等、学校経営の要諦を保持している明晰さが率直に伝わってきました。

教職員、PTA、友人、親戚、同窓会役員等々200名近い関係者が出席し、誠に盛大な祝賀会でした。

校長先生が挨拶の折に述べた卒業生の就職率は100%である、とのお話は、特に印象に残りました。

厳しいリストラ、不況の時代にあって、新聞マスコミで報じられている、高校生の就職率60%台程度とは、別の世界の感でした。

改めて、母校の偉大さを再認識いたしました。

第二件目は、早尾 興さん(千葉西支部副支部

長 23E)の叙勲を祝う会「勲六等瑞宝章」が、12月23日、千葉京成ホテルに於いて、同窓会千葉市3支部主催、23電気科クラス会共催のもと、約90名近くの関係者が出席し、盛大に開催されました。当支部からは、吉田経理部長、田口常任幹事、小生の3名が出席し、お祝いを申し上げました。

早尾さんは、昭和23年に母校を卒業され、直ちに京成電鉄(株)車両部に入社いたしました。その後、同社の車両工場長として活躍し、永年にわたっての功績が認められ、輝く叙勲の栄誉を得られました。

来賓の祝辞にも何度もでてきましたが、ご本人の栄誉は勿論の事、母校千葉工業の誇りでもあります。

早尾さんは、挨拶の中で、宮中の様子等をお話され、その慶事が如何に意義あるもので、誇りうるものであるかが分かりました。また、驚いたことは、京成電鉄(株)勤務中の40年間は、奥様共々、病気は一度もなく、無事、務め終えたとお話でした。奥様の内助の功も、極めて大きかったと思います。

以上の様に、母校の関係者、卒業生は、多分野にわたり活躍しているんだ、と深く感銘しました。

会報2号の発刊にあたり、東葛支部の皆様方に、このような偉大な方が居られることを是非知っていただきたいと考え、ご紹介致しました。

なお、当支部会員の皆様方に、ご紹介した様な栄誉、或いは、類するものを受賞している方がおりましたら、事務局まで、ご遠慮なくご連絡下さるようお願いします。



▲表彰された永峯校長ご夫妻を囲んで



▲喜びの早尾興さんご夫妻

## 千葉市のまちづくり

定時制機械科 教諭

竹内 由一



同窓会の皆様には、日頃より定時制生徒の全国大会への財政的助成や卒業証書筒のお祝い等多岐にわたるご支援をいただき、

誠にありがとうございます。今年も26名の定時制生徒が、皆様の仲間入りをしますのようによろしく願っています。また、この度は東葛支部会報に、標題について投稿させていただくことになり、大変光栄に存じます。

本年2月11日付け読売新聞気流欄に「日本は元気に働く人の社会」というロンドン在住の主婦の意見が載っていました。

内容は、1年前、日本に一時帰国した際、1歳5カ月の長男を連れ妊娠6カ月の本人と、重いスーツケースを引きずった夫の3人で東北新幹線に乗ろうとしたが、駅のエレベータが動いていなかった。困ったとき声を掛けてくれたのは若い女性だった。また、駅のホームには「下りのエレベータ」がなかった。さらに新宿西口のホテルに行くとき、「動く歩道」に乗ればと思ったが、その時間は都庁方面から駅に向かう一方通行になり歩くはめになった。

ロンドンでは電車の中や駅で、絶妙なタイミングで助けてくれる。ということで、日本の社会は「元気な人があまりにも仕事に夢中で自分が高齢者や弱者になった時、はじめて社会の欠如に気がつくという矛盾を抱えている」、と指摘していました。

話は変わって、2月12日付け千葉リビング(サンケイリビング新聞発行)に、首都圏の「わが街の暮らし心地(やすさの意)」のアンケート結果が載っていました。内容は「第1位は7年連続の武蔵野市、第2位横浜市都築区、第3位世田谷区と横浜市金沢区、第5位千葉市美浜区、中略 第9位千葉市中央区、中略 第29位松戸市」の順となっています。このアンケートで目立った事項は、①千葉市中央区が昨年第27位から第9位に大躍進したこと。②第2位

の横浜市都築区が将来第1位になる、ということです。

千葉市中央区の大躍進の要因は、一番目にJR千葉駅から中央公園までのメインストリートの整備が完成し、かつてのように駐輪自転車を避けながら歩く必要のない快適な歩行空間が確保されたこと。二番目は、郵政省の文化施設「ばるるプラザ千葉」や福祉関連施設と女性センターの複合施設「ハーモニープラザ」の完成で、施設が充実した点にあります。

さて本題に入ります。私の住む千葉市は昨年、21世紀の都市づくりの指針となる「千葉市新総合ビジョン」の策定を提言する「新総合ビジョン審議会(通称百人委員会)」を設置しました。部会と全大会を平均3回ずつの開催で審議不足も否定できませんが、40名もの公募委員が参加企画したことは画期的なものといえます。部会は、「総務部会」「自然環境部会」「健康福祉部会」「都市産業部会」「教育文化部会」の5部会に20名ずつ別れて審議が行われました。

審議会の議事録は、千葉市の情報公開条例によって、コミュニティセンター2階の情報公開室で、回覧・コピーが可能ですが、A4版両面印刷で120枚にのぼる量になります。

ここでは紙面の都合上、第1に「千葉市の都市構造」、第2に「地域経済の振興」について紹介してみたいと思います。

### 第1「千葉市の都市構造」

千葉市は、県都としての行政、産業・経済、文化などにおける中核的な役割が期待されている。「千葉都心」、「幕張新都心」の機能の高度化を図るとともに、新たに蘇我副都心の育成・整備を計画する。

「千葉都心は、JR千葉駅と京成千葉中央駅から海岸よりの地域を再開発し、業務機能の他、商業、文化、スポーツ・レクリエーションの機能を集積する」。

「幕張副都心は、幕張メッセ・アジア研究所のような国際的交流機能、先端産業の中核管理・業務機能の他、大手メーカーの研究開発機能、放送大学・神田外語大学・総合教育センターをはじめとする教育学術機能、マリスタジアム・検見川浜のような

スポーツ・レクリエーション機能の集積化、並びに打瀬地区の居住機能の整備を実行する」、となっています。

蘇我副都心構想については、同窓会の皆様は初めて知る言葉だと思いますが、生実校舎の目前に広がる川崎製鉄東工場を、市が5千億円で買収し、蘇我駅周辺部と臨海部を一体として、広域的長期的な視点に立って整備する計画とのことです。

新ビジョン計画は、全体で2兆円の予算で土地購入費が大きなウエイトを占めるため反対者もいるとのことです。

以上の他に、新市街地整備のプロジェクトとして①都川上流、②千葉・市原丘陵、③京成千原線沿線、④農村リゾートなどの整備が計画されています。

このうち、都川上流市街地整備については、「自然環境部会」から見直しが提案されました。その骨子は、「本整備を実施しなくても、2015年には人口の自然増加で100万人になる。それより市民参加で植林による森づくりにしてほしい」というものでした。

議事録を読むと、「都市産業部会」では一応この案を審議しましたが、賛成多数で原案を承認しています。

この経過を或る委員に尋ねたところ、「市街地整備に併せて都市モノレールの環状化を視野に入れている」との回答を得ましたが、公開議事録には、発言者の名前が無く、大変困りました。

## 第2「地域経済振興」

第2回全体会議の議事録に、次のような主旨の発言がみられます。

『「都市産業部会」において、第8部、躍動し賑わいを生む産業を展開する」のなかに、本答申の目玉であると予測される「中心市街地の活性化手法」が盛り込まれていない』

これに対して経済農政局長は、『庁内に「中心市街地活性化基本計画」を、また商工会議所を中心に「まちづくり協議会」を設置して、平成11年度末を目途に検討を進めている』、と回答しています。

中心市街地活性化の手法は私の興味ある事項で、この半年間研鑽してきました。

国は、市街地の活性化について「街づくり三法」と呼ばれる「改正都市計画法」、「大規模小売店舗立地法」、「中心市街地活性化法」で対処しようとしています。大黒柱の「中心市街地活性化法」は、平成10年7月24日に施行され、「市街地の整備改善」、「商業等の活性化」を柱としています。「大規模小売店舗立地法」は本年から施行されます。また「改正都市計画法」は、都市の都市計画によって「地域指定」（例えば、調整区域内に商業を振興させたいとき、地域指定を容易にさせること）を、知事から、政令都市の市長へ権限移譲することを認めています。

「千葉市内の中心市街地の活性化」を願う発言は、「都市産業部会」で各委員からありましたが、効果的な意見を議事録から見つけ出すことはできませんでした。

そこで、2～3の商店経営者に意見を聞いてみたところ、「かつて旧国鉄千葉駅が現在の千葉駅へ移転する際、行政・商工会議所等が中心となって、栄町通りの商店街に対し、駅ビルへの移転を斡旋したり、市街地へ移転する場合には補償金を払ったそうだ。現在残っている商店の多くは、当時それを拒否した方々だ」。

「銀座通りは、戦後7回にのぼるリニューアルを繰り返したが、状況は現在のとおりでである」。

「戦前は県庁・蓮池通りが、戦後の20年間は栄町通りが、昭和の後半は銀座通りが、平成に入りJR千葉駅西口界限が、と、時代と共に発展する地域が変わってきている」。などの意見が聞かれました。

「複雑な利権がからみ、巨費を必要とする既存中心市街地を再開発するよりも、新しい地域にその活路を見出すべきだ」というのが「私がヒアリングから得た結論」でした。

ここで、街づくりのための全国的な交流の場「花咲翁の集い」を紹介しましょう。

昨年は宮崎県高岡町で、今年は5月19～21日、熊本県玉名市で第13回目が開催されます（連絡先：〒865-0065 熊本県玉名市築地 蓮華院誕生寺 川原英照貫首 TEL.0968-72-3300 FAX.0968-75-1065）。

主催者の萩原茂裕先生は、1929年北海道旭川

市出身、埼玉県浦和市在住で、経営コンサルタント時代から地域開発・ふるさとづくりを手がけ、現在「日本ふるさと塾」を主宰しています。

先生は数多くの地方公共団体・学校場で、まちづくり、地域づくりに携わっており、蓮沼門三社会教育奨励賞受賞。著書に「手づくりのふるさと」、「日本人とまちづくり」、「第四の教育(上・下)」、「お互いの力でまちづくり」などがあります。

先生から「竹内君、一度秩父のナイトバザーを見

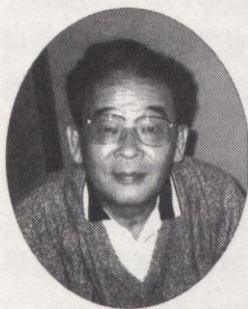
に来ないか」と助言をいただきました。毎月第4土曜日に開催され、雨天の時は新車が当たる抽選コインを配付するそうです。

最後に、毎夜放課後の1時間、生徒と一緒に剣道稽古に励んでいます。大寒の日、剣道を練習する生徒の真剣な眼に、私は21世紀を担う若者の活力を感じる毎日です。

同窓会の皆様のご健康と益々のご発展を祈念申し上げます。乱文にて失礼します。

## カナダ雑感

29C 高橋 健一



一昨年、友人に誘われて約2週間の日程でカナディアンロッキーを旅しました。成田より国際線、国内線の乗り継ぎでカルガリーへ、そこでレンタカーを借り、バンフ

からジャスパーへ…。

旅行記は機会があればまた書きますが、今回は、この旅で感じたカナダについて述べてみたいと思います。

先ず車での旅で気づいたことは、信号機の少ないこと、市街地の中でも殆ど見かけません。それでいて渋滞はなく、警笛も聞いたことがなかった。次

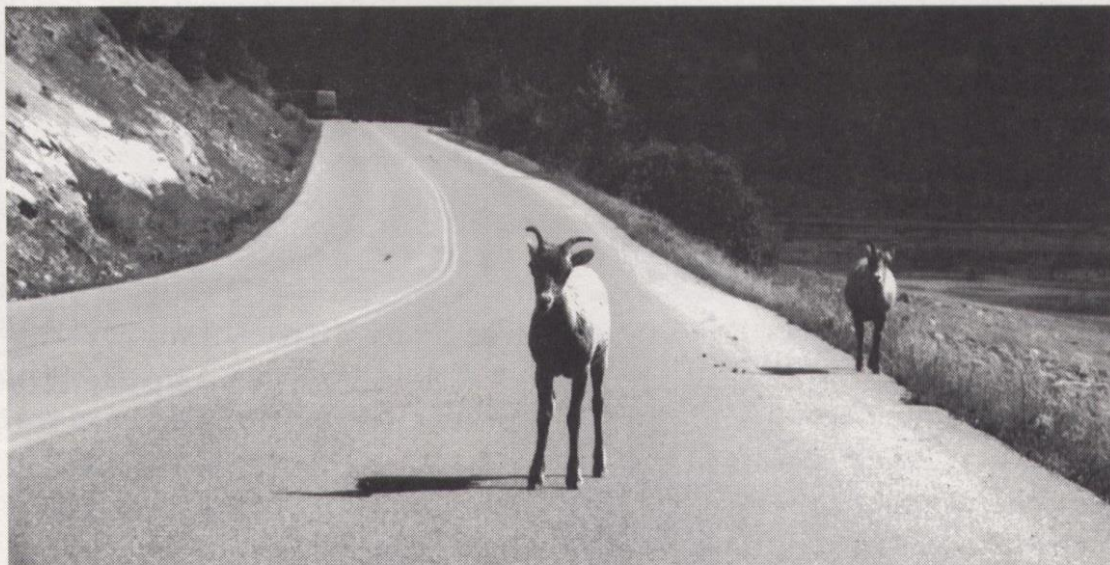
いで、市街地、観光地を問わず、ゴミのないことです。

タバコの吸い殻、空き缶など殆ど見かけず、水が悪いので、皆ミネラルウォーターのペットボトルを持って歩いていますが、空になったらポイ…はありません。

先に渋滞なしと書きましたが、或る時渋滞に巻き込まれました。あまり動かないので思わず警笛を鳴らしたら周りの車からブーイング…、車から降りて写したのが下の写真で、原因は鹿の群れが道路を横断中でした。

最後にジャスパーの民宿に3日間滞在しましたが、2日目のこと、家族全員が旅行に出かけてしまい、家が留守になりました。もちろん家の鍵はすべて開け放し、留守は貴方にまかせます、ということでした。

公德心、人を思いやる心、動物愛護など、日本の現状を見るにつけ、つくづく考えさせられた旅でした。



## 一卒業生の想い

20C 竹内 昭夫



想えばもう70余年もの長い時間を生きてきたというのに、わずかな数年を送ったに過ぎない母校千葉工業への愛着は今なお深く強く、そしてむしろ重く苦い。

私にとっては、学校が懐かしいとか、楽しかったとかというその前に、なぜかいまひとつ気持ちが引けてしまう自分に忸怩たる思いがある。戦争も末期、私のクラスは20年3月、戦時特例によって四年終了を以って卒業という目に会う。今ならば高校一年、学園生活に希望も期待も膨らむ間もなく、あわただしくかけ抜けてしまった。そして終戦、未熟児のまま突然のように戦後の混沌へ投げ出されて座標系を狂わせ、それがあとあとまで尾を引くことになる。

学校が何もしてくれなかったというのではない。学校が無力であったというのではない。我々が学校で何もできなかったということである。すべてそれに尽きる。いま大手を振って母校の敷居を跨ぐことのためにためらいを感じるその裏には、重いコンプレックスがあっても消えることはない。

さて私は、図らずも同窓会東葛支部にOBとして身を置くことになった。私の時代には東葛地区という概念はなかったように覚えるが、いずれにせよ東京側から通ってくる小集団の中に私もいた。悪いが千葉は“いなか”だった。

習慣や話しことばの違いに戸惑い、数において

体力において、そして気概において、他との差を実感する。

学校側も、上総、安州地区から汽車通学をしてなおかつ剛健、成績優秀というモデルタイプを校風の象徴とするかの如く、汽車通学は“男子志を立てて郷関を出ず”のサクセスストーリーにはふさわしいが、比べて我々は東京に近い風土の持つ軽薄かつ軟弱そのままに見えただろうか、やがては圧倒的であった“かずさ”言葉にも親しみを覚え、それぞれの土地柄に培われた生活文化の違いになじんでいったが、所詮東葛は“マイノリティ”であった。

支部の結成が今になってやっとというのは、勿論我々世代の責任でもあるが、戦後すでに花園の校舎は無く、やがて師もされば、一個のハードとしてのみ残った学校、そして当時、東葛人にとって求心力の無かった千葉、それらが距離感を生んだといえれば言い訳が過ぎることになるだろうか。

しかし今、年令を重ねるにつれて、過去がよき思い出の中へと拡散していく……。

あの四年間の、かけがえのない日々の、すべての巡り合わせに感謝したい。すでに遅きに失したとしても、このたびの支部結成を機として、母校をまさに母なる存在として、そしていつまでも少年の心が甘えられる存在として、同窓会が機能することを願ってやまない。

今この時になって、心の深層に秘かな誇りとしてあった「千葉工卒」が、まぎれもなく人生でたった一枚のパスポートであったことに気が付くのである。

## 卒業後48年過ぎのクラス会

26C 立崎 作次

昭和20年4月、私たちは、全県下から、希望に胸を膨らませて、唯一の県立工業学校であった千葉工業工業化学科へ入学致しました。

ドングリ頭の紅顔少年達は、戦中（僅か4ヵ月）戦

後の激動の時代、且つ、少年期から青年初期の多感な年代に6年間母校にお世話になりました。

平成11年10月16日（土）、A組、B組合同のクラス会が、4名の企画者の取りまとめにより、卒業生70名のうち、25名が出席し、恩師、伊藤武雄先生に、ご高齢にもかかわらずご出席頂き、千葉京成ホテルにて盛大に開催しました。



受付では、名前を言わなければ、一見誰だか分からない人、白髪や禿頭になっていても、面影を残している人等、卒業以来の時間の経過を感じた出会いです。

失礼ですが…？ おい俺だ！ 忘れたか…？ ヤア、ヤア〇〇君、××君 等々歓声が上がり、用意されていた名札を付けてもらって微笑む、かつてのドングリ頭の少年達であった。

懇親会に入る前、48年振り(一部は51)の会合であるから、先ず記念写真を撮ろうと、全員が恩師伊藤先生を囲んで集まった。その後、企画者代表の挨拶、経過報告を行い、司会者から14名が物故者になっている旨告げられると、一瞬、驚きのあまり、静粛になった。企画代表者が名前を読み上げ、全員で黙祷を行い、亡きクラスメイトの冥福を祈願した。

最後にご挨拶を恩師伊藤先生から受け、併中2年1組の担任時代の思い出話が披露された。

学校当局からは、非常に賑やかなクラスで、ご苦労を掛けるが頑張ってください、と言われたそうで、荏原製作所から先生への転身であったため、若干不安もあったが、接してみたら、それぞれ個性が強い生徒が多く、“動物園クラス”と命名したように記憶していると話され、一同爆笑した。



▲ 48年過ぎの同窓会  
前列左から2人目が筆者

おい、〇〇君はボス、××君はボスNo.2とか、〇〇君はゴジラ、××君はキリン、等、かつての雰囲気に戻っていた様であった。

先生によると、全体的にはきわめて明るいクラスであった、とのまとめであった。

お酒が進むに従い、カラオケに興ずる人、車座になって談笑するグループ等、宴はたけなわになった。何と言っても圧巻は、〇君が持ってきた、昭和20年4月入学当初、憧れの検見川校舎前で撮影の記念写真には驚いた。小生は何処に並んでいるのか、一瞬分らず、もたついていると、オイ、T君、この可愛い“坊や”この人が君だ。と言われ、老眼をこすりながら見入った。

時間はアツという間に進み、残り時間が少なくなってきたが、周囲はいっこうに無頓着の様子であった。

誰かが、オイ！ 幹事、この懐かしい写真を複製してくれ、と言われ、昔の1組の連中に配ろうと言う事になった。

予定の3時間が、あつという間に過ぎ、お開きにしようとしたら、幹事！ 30分延長しろ！ との声に圧倒され、京成ホテルにお願いし、同ホテル側のご好意により、30分延長させて頂いた。

3時間半の懇親会は、数々の思い出を胸に刻み、次期役員を3名程度互選し、再会を約して散会した。

昭和20年当時の入学記念撮影  
▼ 前列右から3人目が筆者



## 東葛ウオッチング

東葛支部のある東葛地域は県の北西部に位置し、江戸川をはさんで埼玉県と東京都に、利根川をはさんで茨城県に接しています。

近年、首都の機能が広がるにつれて人口が増加し、先端技術産業を中心とした工業化が進んでいます。

これから何回かに分けて、私達の住む東葛地域を、北の方から順にウオッチングして行こうと思います。

### その1「関宿町」

茨城県の結城方面から県道17号線を千葉県へ向かってくると、橋のたもとに「道の駅さかい」があります。ここには隣接して大きなスーパーもあるので食事もでき、一休みするのに丁度良いところです。

### 関宿町の見どころ



県立関宿城博物館

かつての関宿城を形どった建物で、「河川とそれにかかわる産業」をテーマにした、全国でも珍しい博物館です。

4階にある展望室からは、利根川や関東一円の山並を一望できます。



ここまで来ると、いつも、ああ千葉県に戻ってきたなと思うのですが、ここから利根川を渡ると、橋幸夫の歌でおなじみの関宿城へ入ります。

関宿町の歴史は古く、長祿元年、梁田河内守成助が関宿町を築いたといわれています。

それから百数十年後、徳川幕府の利根川東遷、江戸川開削によって水上交通が発展し、幕府の水関所が関宿におかれるにおよんで城下町、宿場町として大いに繁栄しました。当時の人口は4万8千人余りであったと伝えられています。

しかし、明治時代に入って水関所は廃止され、関宿城も取り壊されてしまいました。また、その後の利根川運河の開通、鉄道の発達などによって、関宿における水運の歴史は幕を閉じました。

### 関根金次郎墓碑

坂田三吉との名勝負で知られる十三世名人「関根金次郎」の墓碑で、将棋の駒を形どったものです。



### 鈴木貫太郎記念館

敗戦時首相を務めていた「鈴木貫太郎」の遺品や写真、油絵、宮内庁の式典の際に着た服などが展示されています。

### 関宿滑空場

日本航空協会が設置した、日本最大のグライダー滑空場で、本年5月13～14日「スカイレジャー・ジャパン2000」という催しが行われる予定です。

## 訃報

森 章 様が2月15日、72歳でお亡くなりになり、君津市のセルモ玉泉院で告別式が行われました。

森様は、昭和20年電気科を卒業され、千葉工業同窓会会長代行として同窓会の発展に多大な貢献をされました。また、東葛支部の創立総会には、お元気なお姿でお祝いしてくださいました。

ここに慎んでご冥福をお祈りいたします。

## 皆様の趣味や得意とするものをご連絡下さい。

会員の皆様は、色々な趣味をお持ちだと思いますが、比較的ポピュラーと思われるものについて、役員の中かで一応の担当者を決めてあります。会員の皆様のご趣味・得意な分野・特技などを把握し、当支部はもとより、本部や各支部が計画

する、色々な行事や交流にお誘いしたいと考えています。

趣味やご自分の得意な分野が一致した方は、それぞれの担当者までご連絡下さい。

●ゴルフ	吉田 勝彦	〒277-0941	東葛飾郡沼南町高柳1514	TEL.0471-91-0232
●ソフトボール	木間 英一	〒270-0002	松戸市平賀125-10	TEL.047-343-0455
●麻雀	高橋 健一	〒270-0157	流山市平和台5-400	TEL.0471-59-9367
●囲碁	〃	〃	〃	〃
●登山	松本十九三	〒277-0033	柏市増尾7-4-4	TEL.0471-72-1541

## 今後の予定

### 当支部の予定

ハイキング	尾瀬(夜行日帰り)	7月7日(金)・8日(土)
ソフトボール大会		6月24日(土)江戸川河川敷
バーベキュー大会(兼ハゼ釣り大会)		9月15日(祝) 江戸川放水路付近
囲碁大会		9月(日時・場所未定)
麻雀大会		9月(日時・場所未定)
会報第3号発行		12月
ゴルフ大会		11月(日時・場所未定)
忘年会		12月3日(金)(時間・場所未定)

### 本部・他支部の予定

本部ゴルフ大会	5月17日(水)
第3回同窓祭	6月11日(日) 母校食堂
京葉支部総会	5月13日(土) 割烹玉川
千葉市東支部総会	5月14日(日) 平成館
千葉市中支部総会	5月28日(日) 京成ホテル
市原支部総会	11月12日(日) サンプラザ市原

## 新入会員募集と入会手続きについて

誕生間もない東葛支部では、会員を増やしてどんどん組織を大きくしていきたいと思っています。  
このため、役員の中に「会員増促進委員会」を作って活動しています。

会員の皆様の仲間で、会員資格のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ入会を勧めて下さい。

- 1. 入会資格** 千葉工業学校、千葉工業高校、および同校併設中学校の卒業生、並びにかつて同校に在学していた方で支部長が認めた方。  
東葛地域に居住している方、または出身が同地域の方、同地域に勤務されている方。
- 2. 会費** 年会費 3,000円
- 3. 入会手続** 役員へ入会申込みされますと郵便振替用紙をお送りしますから、年会費3,000円を振込願います。

## 支部会報第3号の原稿募集

東葛支部会報第3号の原稿を募集します。

- 1. 発行予定** 平成12年12月
- 2. 原稿締切** 平成12年11月
- 3. 内 容** 母校の思い出・恩師の思い出・私の職場・私の仕事・私の趣味・私の特技・旅日記・近況・クラス会模様・エッセイ・呼びかけ等、何でも結構です。
- 4. 投稿方法** 卒年科・ご氏名を記入の上、郵便・FAX(自動受信)・E-mailのいずれかでご投稿下さい。
- 5. 投稿先** 編集委員長 住田 敏和 〒:279-0026 浦安市弁天3-2-68-5  
TEL/FAX:047-355-2314 E-mail:sumita@sunfamily.co.jp

東葛支部会報

第2号

発 行	平成12年6月10日
発 行 者	千葉工業同窓会東葛支部
発行責任者	支 部 長 立崎作次
事 務 局	事務局長 高木 昇
編集責任者	編集委員長 住田敏和